



庵治便り



Aji-dayori

松原等石材店

# アンケートにご協力ありがとうございました!!

先日は、手紙とアンケートを突然お送りしたにもかかわらず、返信いただいたり、インターネットでご回答いただいたりして下さり、本当にありがとうございました!!中にはメールやお電話をいただいた方もおられ、じより感謝です!!

アンケートにご回答いただいたことや質問いただいたことをまとめさせていただきました。遅くなりましたが、お時間のある時に読んでいただければ...と思います。どうぞよろしくお願ひします!!



## 庵治石はもう採れない...と聞いているのですが...

答えから言うと「庵治石はまだ十分にあります!!」です。大丁場だけでも広さは60万㎡の広さを誇り、これまで約500年は採掘されていますが、この先、何百年も採り続けていけるだけの豊富な量があると言われています。まだまだ大丈夫です。

なぜ「庵治石がもう採れない...」という話に上っているかは、ちょっと分からないのですが、丁場にも、工場にもまだまだたくさんあります。写真のような大きな原石もあります。よければ実際に見ていただければ一目瞭然です。お時間があれば、案内させていただきますので、よからたら産地にお越しください!!



Youtube  
「庵治石TV!!」  
を観ます!!



# 庵治石は、最高級品であることは 知っていますが、なぜ良いのか分かりません。

修行を始めてから、なぜ庵治石が墓石として最高級とされ、高価であるにもかかわらず、選ばれ売れてきたのか…。それを知るために、ベテランの職人さんや庵治産地の関係者の方に質問してみました。

その結果、庵治石の良さは、職人さんから教えてもらった言葉に集約されると思っています。それは、「庵治石の良さは、古いお墓を見れば分かる。」という言葉です。これは、庵治石は建ててすぐももちろんキレイなのですが、古くなればなるほど、良さが出てくる... というもの。

その理由は、2つある...とボクは思っています。

まず1つ目の理由は、古いお墓であっても「角が立っている」ことです。古い庵治石のお墓を見ると、そのことが分かります。



「角が立つ」とについて、職人はよく「庵治石の良さはねばいこせ。」と言います。特に開きを作る役物の職人や字彫りの職人がよく「庵治石はキレイに加工ができる。」と口をそろえていることも、そのことを表しています。

専門家に伺ったのですが、これは石が硬いことはもちろん、庵治石を構成している粒子が複雑に絡み合っていることが起因しているようです。これが職人の言う「ねばさ」につながっていて、糸細かいところも欠けにくく、他の石に比べてきれいに加工ができるのです。これが同時に、経年の風化に強い要因の一つになっています。



そしてもう1つは、古くよても、庵治石独特の「<sup>小</sup>斑」がキレイに浮いていることです。「斑」はでき上がった時はもちろんとてもキレイです。専門家に伺っても、この「斑」が浮く力こそが、よく分かっているようです。

この「斑」は、ずっと消えないので、年が経って、石が白っぽくなると、さらにキレイになります。「斑」は変化せず、周りが白っぽくなるので、でき上がったときよりも、ハッキリと浮き出てくるように見えます。建った時も美しいのですが、古くなったほうがかえって「斑」がキレイに浮かび、庵治石独特の良さが表れます。

「庵治石の良さは、古いお墓を見れば分かる。」と産地で表現されてきたように、庵治石は最も墓石に適した最高級品とされてきました。その言葉に表されているとおり、庵治石のお墓はキレイに加工された姿が、そのままに後世に残されています。



# 庵治石は高い。 なんでそんなに高額になるのですか？

庵治石はキズやムラが多く、原石から墓石として流通するものは、全体の3%とも言われています。1つの墓石を作ったら、少なくともその30倍の石が廃棄され、墓石以外の埋め立てや砂利などに利用されている...ということになります。

その3%の墓石の中に、糸目や中目があり、「斑(ふ)」の浮き具合も多様です。つまり、庵治石細目で、キレイな「斑」が浮いているものは、ごくわずかなり希少な値段が高くなってしまいます。

実際にかロエをしても、大きな原石にキズが出てしまえば大半が使いなかつたり、磨いたあとにキズが見つかったりすることがあります。ほとんどでき上がってから、キズが見つかることもあり、全てがやり直し...ということもめずらしくありません。かロエをしているボウもそうです。当然、原石を採掘している丁場も同じで、採っても採ってもキズが出てしまう...ということがあります。



こういったかロエの難しさから、庵治石はイセの石のように中国でかロエすることが難しく、庵治産地の職人によってかロエされています。このことは、採石から完成までの全ての工程の全ての職人の顔が分かる...という庵治石ならではの良さの1つにつながっています。

このかロエに手間がかかること、かロエの難しさから、イセの石に比べて高価になる理由の1つです。

そして、庵治石細目は、石目や色の濃さがさまざまであることがもう1つの理由です。同じような場所で採れた石でも、色の濃さが違ったり、数cmちがうだけで石目が変わってしまったりすることがよくあります。



なので、全体の石目、色の濃さを合わせようとするとき、丁場にお願ひして何度も原石を取り換えたり、いくつも製品を作っておいたものを組み替えたりしながら、全体の雰囲気に合わせていく必要があります。

このように1つの墓石を作るのに多くの原石を必要とするのが事実です。庵治石細目を専門に扱う松原等石材店では、大丁場「大進石材」の原石にこだわって数多くの量を扱っています。丁場との関係も深く、大きな原石からかロエしたり、在庫を利用して、石目や色の濃さを合わせたりすることで、価格を抑えて提供することが可能となっています。

# 注文してから時間がかかる…と聞いたことがあるのですが、どれくらいで納品してもらえますか？

昔は、需要が供給を上回っていて、原石が不足していた時代があったと聞いています。なので、半年待ち、1年待ち…といったこともあったと聞きます。キズが多いこともあり、カロエに時間がかかっていたのは、事実だと思います。

でも最近では、原石は豊富にあり、昔に比べて良質の原石になっています。また、在庫もありますので、注文いただいてから1ヶ月もあれば十分段取りができると思います。急ぎの場合でも、相談していただければ、納期に合わせて段取りできることがほとんどです。ぜひ、ご相談ください。

# 前に庵治石を使った時に、サビが出て大変でした。サビが出ないものはありますか？

石は自然のものなので、全く色が変わらない…ということは言えません。おっしゃるように、庵治石は鉄分が多い石なので、採掘する場所によっては、サビが出たり、赤みを帯びやすい色があります。

また、木の下に建てられた墓石にはアクリルが入ってしまったり、線路沿いに建てられた墓石には、鉄粉が付着してしまい、サビが出たり、変色したりすることもあります。こういった外的な要因ではなく、重ねキズからサビが出たり、真赤に変色したりした場合は、対応させていただきますので、ご安心ください。

本原等石材店の扱う庵治石系目は、大丁場「大進石材」の原石です。大丁場の石は、庵治産地の中でも、最も石目や「斑玉」が美しく、赤く変化しにくいことで有名です。その中でも「大進石材」の原石は、最高級品として知られています。



庵治石和目 石碑加工 **松原等石材店**

〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼 2609-2  
TEL 087-845-1544  
FAX 087-845-7374  
携帯 080-1430-6253  
E-mail info@ajistone-hitoshi.com  
Web <http://ajistone-hitoshi.com>



AJISTONE\_HITOSHI

修行日記本記す!!  
世に「いん」を「ろ」を  
よすべし!!